

機械機能工学科・情報工学科・通信工学科グローバルPBL

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2021年03月11日 ~2021年03月18日	日本	スラナリー工科大学 トウルク・アブドゥル・ラーマン大学 スラバヤ工科大学 タルラック農業大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械機能工学科</li> <li>・情報工学科</li> <li>・情報通信工学科</li> <li>・学部2年生</li> <li>・学部3年生</li> <li>・学部4年生</li> </ul>	(芝浦工業大学) 学生13名、TA1名、教員4名 (スラナリー工科大学) 学生18名、教員2名 (トウルク・アブドゥル・ラーマン大学) 学生6名 (スラバヤ工科大学) 学生6名 (タルラック農業大学) 学生1名	高崎 明人(機械機能工学科) 木村 昌臣(情報工学科) 森野 博章(情報通信工学科) 堀江 亮太(情報通信工学科)

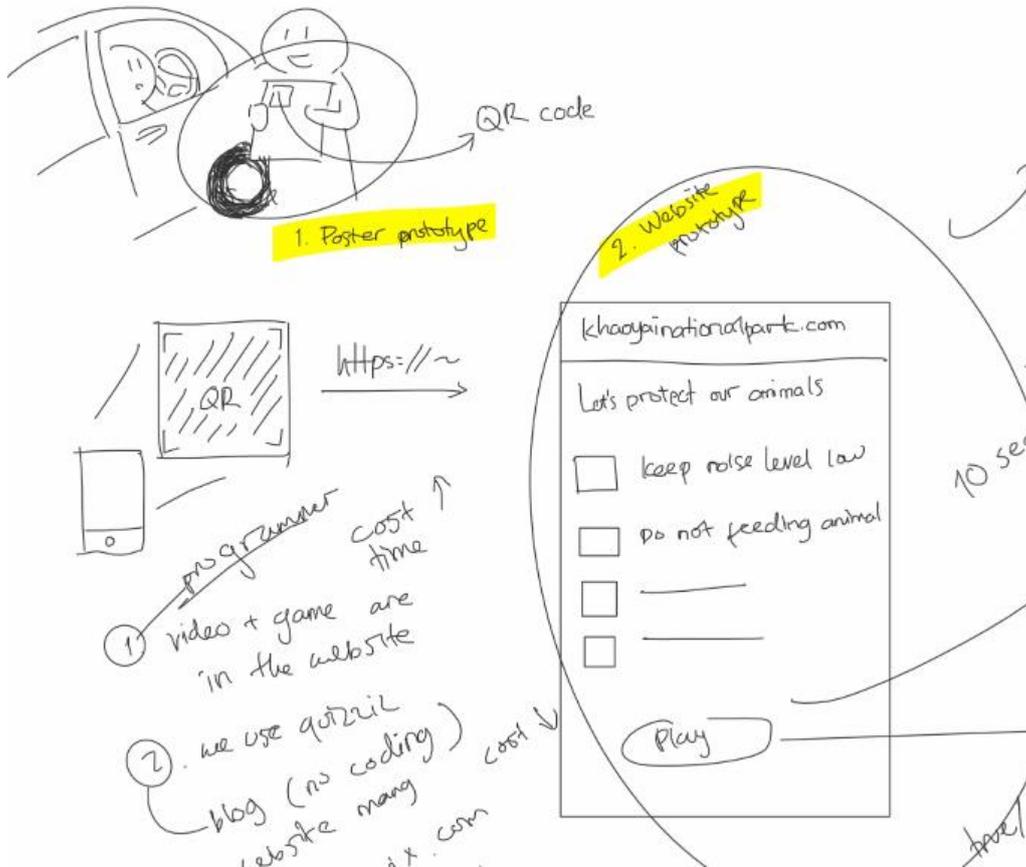


図1 ディスカッション中のメモ

新型コロナ蔓延のために海外渡航が難しい状況にあり、今回のスラナリー工科大学でのグローバルPBLをオンラインにて実施しました。テーマは、タイのカオヤイ国立公園(スラナリー工科大学に比較的近い国立公園です)が抱える問題の発見およびそれに対する工学的な解決方法の検討・提案でした。各チームに属するスラナリー工科大学の学生は国立公園の現場やスラナリー工科大学のキャンパスから参加しており、芝浦工業大学の学生とオンラインで議論をしていました。慣れない英語を使ったオンラインでの議論は大変であったようですが、問題設定やプレゼンテーション技法など検討をする上での講義が豊富で、かなり充実した議論が出来ていた様子でした。



図2 発表資料(プロトタイプ案)の例

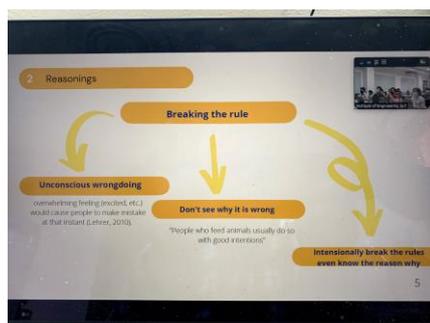


図3 発表資料(検討内容)の例

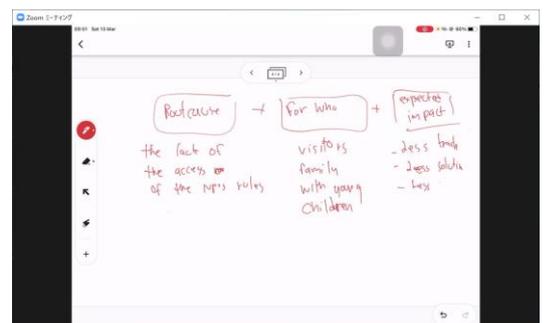


図4 本質的な原因の洗い出し